

希望の巡礼者として通常聖年（2025）から 『シノドス最終文書』が示す教会総会（2028）に 向けての新たな歩みについて

広島司教区 アレキシオ 白浜満司教



8月5日 平和行事 平和祈願ミサの様子

広島教区の兄弟姉妹の皆様、10月に入つて秋の気配が感じられるようになりますが、その後、お変わりなくお過ごしでしょうか。世界の教会は、教皇レオ14世のもとで、2028年に開催される「教会総会」に向けて、新たな歩みをスタートしています。このことについて、一緒に考えて行く前に、まず、今夏の行事等への感謝を申し上げたいと思います。

キリストの平和の使徒として、被爆地の教区として、これからも神様の恵みによって支えていただきながら、被爆地の教区として、これが高齢化していく中で、被爆者が高齢化していく中で、被爆地の教区として、

はじめに

感謝のことば

広島教区報

No. 142

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
瀧井英昭神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区幟町4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

司教メツセージ・じゃけえのう・平和行事報告
うちのイチ押し・ベトナム人協同体
エリザベト音大・イタリア・ドイツ公演報告
サービスフェスタ・オリーブの樹
地区便り・海嶺からの風
青少年・ひと粒

6月からサンタフェ大司教区で協力司祭として過ごさせていただいております。目的は「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」の推進です。アメリカに到着して次の日、たまたま司教座聖堂の近くの交差点で核兵器廃絶を訴えている団体と出会いました。毎週金曜日に行われ、何十年も参加している人もいると聞き、大変勇気づけられました。一方厳しい現実もあり、私の住んでいるグアダルーペの聖母教会から車で40分の原子爆弾の誕生の地、ロスマラモス研究所近くの博物館は「原爆投下は戦争終結を早めアメリカ国民の命を救った」という展示内容で、広島、長崎の写真は破壊された建物だけで犠牲の方々の事が全く言及されていませんでした。現地の人々は核軍拡の問題への関心が薄い印象です。

どうか私の活動が「からし種のたとえ」のように、微々たる働きでもいつか平和の実を結びますように。

「あなたの業を主にゆだねれば、計らうこととは固く立つ」（箴言 16:3）

伊藤 正広



"That's why, you know." とは
日本語で「だからね」
広島弁では、おなじみ
「じゃけえのう」という意味。

15面
12面
10面
8面
7面
6面
5面
4面
3面
2面
1面

ての召命を生きるために、ともに祈り、地道に小さな努力を重ねて行きたいと思います。

また、今年の「広島教区の日」（9月15日）を前に、待望の「広島教区百年史」が発刊されました。本当に素晴らしい百年史が完成しました。教区百年史編纂委員会の委員をはじめ、準備段階でご協力くださった関係者の皆様に、御礼申し上げます。記念誌というより、歴史書としての内容を持つ本書が、教区の信仰の先達の歩みを学び、これから的新たな歴史を築いて行く力となりますように。

「希望の巡礼者」というテーマで過ごしてきた2025年の通常聖年も2か月足らずとなり、12月28日に閉幕します。被爆80年にあたつていた通常聖年の間に、希望をもって歩み続けることの大切さをわたしたちに思い起させ、数多くの恵みを与えてくださった神様に深い感謝をささげたいと思います。

新たな「実施のステージ」に向けて

ようになります。
①神の民への意見聴取と聞き取りのステー

ジ（2021年～
2023年の間に実

ノドス流の教会——交わり、参加、宣教」をテーマに2021年から3年間、

神の民全體からの段階的な聞き取りを踏まえて実施し

た世界代表司教會議（世界シノドス）第16回通常総会

の第2会期が2024年10月26日に閉会しました。

そして教皇フランシスコは、その終わりに提出された『シノドス最終文書』そのものを、承認され、その中に示されている方向性を参照しながら、新たな歩みを始めることを願われました。そして、教皇シノドス事務局は、教皇レオ14世の承認のもとに、「シノドス実施ステージの旅程2025年～2028年」（シノドス流の教会交わり、参加、宣教）という文書を、今年6月29日（聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日）に公布しました。この文書に基づいて、世界シノドスのこれまでと、これから歩みを整理すると、以下のようになります。

ものの報告であり、教会の生活と使命のための権威ある方向づけとなるものであります」（教皇フランシスコの付記）。

そして、「地方教会（↓教区）とその連合体（↓司教協議会）は、種々の法や本文書が定める識別と意思決定のプロセスを通して、本文書に示されている権威ある指示を、おのおのの文脈に応じて実現していくよう求めました（同付記）。

今後、広島教区においても希望の巡礼者として、上記③の『シノドス最終文書』に基づく新たな歩みを開始して行くことが求められています。この旅程は、以下のようになっています。

すでに、①と②のステージは終了し、この貴重な体験の実りとしてまとめられ

た『シノドス最終文書』が、「ペトロの後継者の通常の教導職によるもの」として教皇フランシスコに

2025年6月～2026年12月……各教区における実施のための活動

2027年上半期……教区における評価集会

2027年下半期……各司教協議会における評価集会

2028年第1四半期……

大陸別評価集会
2028年10月……
バチカンでの「教会総会」

(1)【実施ステージの目的】
この3年に及ぶ「実施ステージ」は、福音宣教の使命をより効果的に遂行していくことができるよう、

『シノドス最終文書』の中における特定の具体的な側面に焦点を当て、その刷新のための提案」（おもに

『シノドス最終文書』第2部、第3部、第4部）について検討することを求めて

います。そしてその前に、教区における新しい組織や実践を検討し、具体的に確立することを求めていま

す。「実施ステージ」は、まず「教会生活やその組織・機構の役割に」目に見える形での成果を求めてい

ます。シノドス流の組織や実践が生まれなければ、個々の課題についての検討に入ることは困難だからです。

(2)【実施ステージに参加する人】
ペトロの後継者としての

教導権によつて、教皇フランシスコは、前例のない行為として『シノドス最終文書』を承認し、その方向性に基づいて、神の民全体がともに歩むよう求めました。そのために、実施ステージには、『シノドス最終文書』の受け手である神の民全体（女性も男性も、幅広い範囲のカリスマ、召命、奉仕職を有する人々が含む）が参加するよう招かれ、これまで周縁部に取り残された人々が、誰も排除されないようにすること求めています。

〔教区司教の責任〕

(2-1)

各教区における実施ステージの第一の責任者は教区司教とされています。つまり、「この歩みを始め、その期間、方法、目標を公に示し、その進捗に寄り添い、その結果を承認して終了させるのは、教区の司教です」。この指摘に従つて、わたし自身も、広島教区における実施ステージの期間（開始日と終了日）、そのあり方（ツールや方法）、目標等についての原

案を準備し、11月8日に予定されている平和の使徒推進本部会議で検討をして、ただいた上で、12月13日に予定されている教区宣教司牧評議会に提出して意見を求め、最終決定をして、それを皆様に公表したいと思います。

〔司祭と助祭〕

(2-1a)

職務の遂行において、司教と共同責任を負っている司祭と助祭には、神の民の中にあらざまなカリスマの識別と、教区に対する実施ステージの歩みの同伴と導きにおいて、司教の協力者としての役割が求められています。そのため、シノドス最終文書」や「シノドス実施ステージの旅程2025年—2028年」の文書の理解を深めて行く必要があります。

〔教区レベルの参与機関〕

(2-1b)

教区の司祭評議会、宣教司牧評議会、経済問題評議会は、従来のようにそれぞれに独自の方法で教会的なる識別のプロセスに参与します。また、シノドスの実施

牧評議会に提出して意見を求め、最終決定をして、それを皆様に公表したいと思います。

〔シノドス・チーム〕

(2-1c, 2-2)

この実施ステージのために求められているのが、教区レベルでの「シノドス・チーム」の設置です。これは可能であれば、地区および小教区レベルでもこのチームを設置することが望ましいとされています。またこのチームは、種々の年代、文化（国籍）、養成の背景を持ち、教会の多様な奉仕職とカリスマを代表する男女の信徒、司祭、助祭、男女修道者・奉獻生活者によって構成されることが求められています。

〔司教教書〕

(2022年復活祭)

として振り返り、さらに「実施ステージ」の歩みを組み入れて行くことが求められています。

①「シノドス対応調整チーム」

「司教教書」（2022年復活祭）のパンフレットの7頁に、「提言推進のための教区組織」という項目があり、その1番で「シノドス対応調整チーム」という名称のチームの設置が提言されました。実際に、このチームは「平和の使徒推進本部」の傘下に位

スティージの歩みに関わる司教の提案について意見を述べ、その意思決定に参与する役割を行うことになります。

「実施のステージ」の歩み

今後、広島教区においては「2020教区シノドス（代表者会議）」の提言をまとめた「司教教書」とも歩むあたたかさのある教会をめざそう」（2022年復活祭）で示されスタートしたばかりの歩みを、世界『シノドス最終文書』

（2024年11月）に照らして振り返り、さらに「実施ステージ」の歩みを組み入れて行くことが求められています。

②「シノドス対応調整チーム」

員になることにも何の妨げもなく、むしろ望ましいとされています。そして、このシノドス・チームは、今後の教区のシノドス流のあり方の活性化や、そのため必要な養成の役割を担う必要があります。そして、これが求められています。

「シノドス実施ステージの旅程2025年—2028年」の文書の中では、「シノドス実施ステー

ムとして活動を開始し、月に1回の割合でオンライン会議を開催しています。そして、おもに「司教教書」の中で要約された「10のテーマ30のチャレンジ」の中で優先的な課題を整理し、その具体化（実現）に向けての作業を続けてきました。この度の『シノドス最終文書』（2024年11月24日公布）が求めているシノドス・チームの役割を、広島教区においては、平和の使徒推進本部が荷い

た下部にある「シノドス対応調整チーム」が下準備をする体制がベストであるように思います。今後、平和の使徒推進本部会議や教区宣教司牧評議会での話し合いを踏まえて、『シノドス最終文書』を参照しながら、教区の組織体制をして行く検討が必要になります。

「シノドス実施ステージの旅程2025年—2028年」の文書の中では、「シノドス・チーム」の権限は、（司教による意思決定のための）参与機関

(教区の司祭評議会、宣教司牧評議会、経済問題評議会など)の権限と重複するものではなく、相乗効果を追求する精神のもと、それと調整されます。シノドス・チームは、その教区内におけるシノドス流の活性化や養成に役立つよう設置されます。参与機関は、教会法によって規定された、能動的に評議していく任務を実行していくよう求められています」と指摘されています。

広島教区においては、(司教による意思決定のための)参与機関(教区の司祭評議会、宣教司牧評議会、経済問題評議会など)と、次に述べる「宣教ひろば」の役割と関連性を整理することによって、その相乗効果を期待できるのではないかでしょうか。

②「宣教ひろば」の活用 同じく「司教教書」(2022年復活祭)のパンフレットの7頁の「提言推進のための教区組織」という項目2番では、「次回

2月23日に、「近隣の小教区がともに歩む新たな姿(協働体)とは」というテーマに、協働体レベルで開催されました。そして、2025年6月の教区宣教司牧評議会において、今後も毎年2月23日(国祭日)に、この「宣教ひろば」を開催することを決定し、次回2026年2月23日に

は、地区レベルでの「宣教ひろば」の開催が、現在

シノドス(代表者会議)」の5つの柱の分科会(宣教、平和、多文化、協働、養成)で、それぞれ要約されたチャレンジを具体化して行くためのオンラインによる自主的な会合です。この中で、広島教区においては、「宣教ひろば」の実施を最優先の課題として、昨年度からネットを活用しながら「宣教ひろば」を開催しました。第1回目が2024年4月29日に、「世界シノドス(第16回通常総会)についての講演」と「靈における会話の学びと実践」をテーマに教区レベルで開催されました。また第2回目が2025年2月23日に、「近隣の小教区がともに歩む新たな姿(協働体)とは」というテーマに、協働体レベルで開催されました。そこで、2025年6月の教区宣教司牧評議会において、今後も毎年2月23日(国祭日)に、この「宣教ひろば」を開催することを決定し、次

回2026年2月23日に

は、地区レベルでの「宣教ひろば」の開催が、現在

準備されているところであります。

この「宣教ひろば」は、教区における宣教活動の活性化を目指して開催されますが、この「宣教ひろば」は、意思決定のための参与機関(教区の司祭評議会、宣教司牧評議会、経済問題評議会)のような評議会を目的とした会議ではないことを確認したいと思います。

むしろ、教区宣教司牧評議会から依頼されたテーマについて、何が神の望みであるのかを識別するために、ともに学び、祈りのうちに聞き合い、分かち合い、そこで出された意見をまとめ

て提出する役割をもつています。そのまとめ(要約)

と

ともに学び、祈りのうちに聞き合い、分かち合い、そこで出された意見をまとめ

て提出する役割をもつています。そのまとめ(要約)

は、(小教区、地区、教区レベルでの)参与機関に還元されて、意思決定のため

に役立てていただくことになります。つまり毎年、開催される「宣教ひろば」は、幅広く共同で識別する

ために、神の民全体からの聞き取り、分かち合い、そ

の要約を還元して、宣教司牧評議会を補助するシノドス的な活動であるというこ

とです。現在、司牧責任者(小教区主任、地区長、教区長)の識別・決定を補助するためには(小教区、地区、教区レベルでの)宣教司牧評議会には、選出された代表委員だけが評議に参加します。しかし「宣教ひろば」では、どんな人にも自由に開かれた参加ができるよう、「ひろば」という名称が選ばれています。また、「司教教書」(2022年復活祭)のパンフレットの7頁の「提言推進のための教区組織」という項目3番では、「次回の『教区シノドス』までの適切な中間期に、「ネットひろば」の拡大会議となる『教区ひろば』の開催をすることが宣言されています。「シノドス実施システム」が推奨されています。

広島教区においては、これまで2回の「宣教ひろば」において、「靈における会話」の手法が用いられました。そのために、「シノドス対応調整チーム」の提案で、ファシリテーターの研修会も開催されました。その後、十分とは言え

ないにしても、小教区や種々の活動グループにおいても自動的に「靈における会話」の実践がなされてきました。これから1年

で、シノドス実施ステージの旅程2025年―2028年の文書は、

「教会には、多様性に富ん



に1回、実施されて行く「宣教ひろば」において、「靈における会話」のあり方を学び、その実践が親しみやすいものとなっていくよう、その手法の工夫やファッシリテーターの養成にも力を注いでいくことが重要です。ただし、今後の「宣教ひろば」において、「靈における会話」を手法として用いる必要はありません。

今年は被爆80年の節目にあたり、「原爆投下80年平和への希望をあらたに」で平和行事を開催した。米国の大司教と大司教を中心とするカトリック大学の方たちからなる平和巡礼団、韓国の司教有志、日本多くの司教など教区内から、多くの方々に参加していただいた。5日の午後

「ともに歩むあたたかさのある教会」を目指して

広島教区では、2021年～2022年度にオンラインで実施された「2020教区シノドス」の提言のまとめである「司教書」（2022年・復活祭）に基づき、宣教に励む教区へと成長していくために、昨年度（2024年度）から、「ともに歩むあ

たたかさの教会をめざそう」を長期目標として、新たな歩みをスタートしたばかりです。そこに「世界シンodus」（第16回通常総会）の新しい光が注がれました。「主イエスが弟子たちに託した宣教を、シノドス流の教会として前進させる」というわたしたちの教区における取り組みを具体的な形にしていく時が来ています。ロザリオの月にあ

最初に、隣接するエリザベト音楽大学のセシリニアホールをお借りして日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）と広島被爆者7団体、またANT-Hiroshimaの理事長の渡部朋子さんのご協力をいただき、米韓日の司教有志と被爆者団体との平和集会を開いた。この集会では、日本被団協のノーベル平和賞受賞をお祝いし、米韓日の司教様方と一緒に駐日バチカン大使の挨拶があり、レオ14世教皇様からもメッセージをいただいた。ミサの後、平和公園の原爆供養塔前で聖公会に加えて福音ルーテル教会も参

には共同声明を発信した。続いて世界平和記念聖堂に移動して平和祈願ミサが行われた。米国とポルトガルの大天使が参列されたことから、入堂時に信徒全員持ち物検査が行われるなど、厳しいセキュリティチェックが実行された。

翌日6日の原爆の日の朝8時、パイプオルガン演奏と沈黙に続いて「原爆と全ての戦争犠牲者のためのミサ」が行われた。ミサの前にはノートルダム清心高校の生徒たちによって聖堂案内が行われた。続いて行われた青年の企画によるカトリックユースプログラムには、信徒の子供たちや力

たり、聖母マリアの取り次ぎを願いながら、今後とも、教区のすべての兄弟姉妹の皆様のお祈りとご協力を、よろしくお願ひいたします。



エリザベト音大で行われた平和行事

また関連行事として、午後から音大では、日米カトリック大学による平和に関する学術シンポジウムが行われ、続いて広島県宗教連盟主催の「平和の意志（石）をつなぐ」出発式が執り行われ、記念聖堂前から平和の石を先頭に原爆ドームの先の法縁寺まで行進した。



エリザベト音大で行われた平和行事参加者



呉教会の信徒

聖堂内部は昔な
り、
祭でした。

風呂井・諫山
(呉教会)

うちの教会は、昨年献堂70周年を迎えました。70年前の呉は戦争の大好きな痛手のために、復興もまだ緒につかず、衣食住にも事欠く状態だったそうです。そんな中、建てられた新聖堂を「人間の努力より、聖母マリア様の御取次と、神の御摶理の不思議なご協力で建てられたものであること感謝しましよう」と当時の主任司祭ペトロ・

次々と修繕が続き、ついに大がかりな外壁塗装が必要と判断されました。高齢化の今、多大な工事費が本当に集められるのか、不安も残しつつ始まった工事でしたが、多文化共生でともに歩む外国籍の方々の協力もあり、献金は間もなく目標額に達するところです。

復活祭前日に足場が取り払われ、生まれ変わった純白の聖堂がその姿を現しました。主の復活と重なりいつも以上に大きな喜びとなつた復活祭でした。

Vol.2 呉教会

うちのイチ押し!

コップ神父は
おっしゃいまし
た。
それから神父
様方や多くの信
徒の方々の祈り
と奉仕で守られ
てきた聖堂です

が、ここ数年は
がらの木の長いすが並
び、美しいステンドグラ
スを通して差し込む
光に歴史を感じ、心癒
されます。献堂当時8
枚だったステンドグラ
スは、2年前新たに7
枚加わり、イエスのご
生涯を表すことができ
ました。それは「聖堂
のすべての窓をステン
ドグラスに」とのコッ
プ神父の念願であり、
このステンドグラスを
通して、呉市民の救い
のためにキリストを伝
えていこうとしていた
神父の熱意と使命を私
たちは受け継いでいき
たいと感じています。



呉教会



広島教区ベトナム共同体の信仰生活と 若者の司牧活動に



ご理解とご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

この度、巡礼支援金（総額30万）を頂き補助として使わせて頂きました。

今まで、広島共同体は7/19・20、呉共同体は8/15、福山共同体は8/24、128名が

広島教区内巡礼地教会を訪問し祈りと交流・分ち合いを通じて信仰を深めました。

全国ベトナム人若者の為の聖地巡礼9/14～15（神奈川）に、山口・広島・岡山のベトナム青年23名が参加。今後、三篠共同体が長崎巡礼10/11～12（約40名）広島・三篠・三原共同体が

細江教会・サビエル・津和野・乙女峠の巡礼11/2-3（約40名）を計画しています。

このように、教区からの暖かいご支援により、各共同体は信仰を深め、特に若者たちが

主との出会いを体験し、共同体としての絆を強める貴重な機会を頂きました。

私達ベトナム共同体と若者は、広島教区の為に、
ささやかな力と祈りを捧げ続けてまいります。



名古屋教区から献金の御礼

広島教区は、能登半島の復興支援のための2回目の募金1,265,662円を8月29日に名古屋教区にお送りしました。1回目と合わせると合計6,980,129円です。ご協力ありがとうございました。名古屋教区 松浦悟郎司教様から、お礼と能登半島地震で全壊した輪島教会献堂式のお知らせがありました。(以下に一部抜粋)

……輪島の信徒たちはほとんどは被災し、仮設住宅に避難するなど大きな被害を受けましたが、全国から名古屋教区に寄せられた義援金で生活支援が受けられ、また、輪島教会が新しくできることで、生活と信仰の大きな支えになると思います。

能登半島地震に際しては、日本司教団で取り決めたERST(緊急対応支援チーム)とカリタスジャパンの支援によって、被災地全体への支援の計画ができ、教区としての活動の方向性を決めることができました。またそれぞれの司教様方の応援もあって、全国の教会や修道会、またカトリック学校、施設、個人から本当に多くの義援金を送ってください、輪島教会が建てられるところまできました。心から感謝いたします。どうぞ、教区のみなさまによろしくお伝えください。……



新しくなった輪島教会



エリザベト音楽大学合唱団 イタリア・ドイツ公演



7月30日から8月8日まで、エリザベト音楽大学合唱団が「被爆80年イタリア・ドイツ公演」を行いました。声楽専攻生を中心とした44人が広島市の「平和芸術団」として派遣され、イタリアのローマ、ベネチア、ドイツのハノーバーの各地で演奏しました。

7月31日、ローマのジェズ教会で行われた聖イグナチオ・デ・ロヨラの記念日のミサでは、奉納と聖体拝領時に聖歌隊として演奏奉仕しました。翌8月1日は聖イグナチオ・デ・ロヨラ教会で演奏会を開催し、今回新たに本学教員が作詞・作曲した、広島で被爆者救援に尽力したペドロ・アルペ神父の列聖を祈念する合唱曲《「他者のために」ペドロ・アルペ神父を偲んで》をはじめ、約1時間のプログラムを披露しました。8月2日には聖年を祝うサン・ピエトロ大聖堂を訪れ、全員で祈りを唱えながら聖なる扉をくぐり、聖堂内を見学しました。午後からはイエズス会本部にてアルトウーロ・ソーサ総長と面会。総長への音楽のプレゼントとして、聖年公式聖歌「希望の巡礼者」をイタリア語と日本語で歌いました。

8月4日にはベネチアで演奏会、8月6日には広島市の姉妹都市であるハノーバーで広島原爆犠牲者追悼式典に参列したほか、現地の合唱団との合同演奏会も開催しました。



聖イグナチオ・デ・ロヨラ教会にて

「教会オープンデー」を合言葉に、開催させていただいているこの一日の様子を、
すこしあり紹介させていただきます。

そんなサビフェスのこと、「皆さん
もっと知つていただきたい良いのでは？」
とご提案をいただき、本記事を書かせて
いただきました。

昨年より、山口教会を会場に開催させていただいている「Xavier Fiesta (以下、サビフェス)」。皆さまの寛大で、
寛容なご協力と、お祈りのおかげで、
地域の方々、さらには他教区の方にも喜んでいただけるイベントになってきております。この場をお借りしまして、改めて感謝申し上げます。



「ともに歩む教会」の実現を目指して



来場者と談笑するボランティアスタッフの様子

信者・未信者、宗教に関心のない人を問わず、「ともに歩む教会」を実現するための開かれた福音宣教の試みとして、サビフェス開催への動きが始まったのは、2023年の夏のことでした。

そのきっかけとなったのは、WYD リスボン大会に参加した青年たちが目にした光景です。世界中の教会から集まつた多くの人々が、キリストという名のもとに一つとなって喜びを分かち合う姿に触れ、日本でも「この喜びを共にしたい」と願いが生まれました。

その願いを受けて、少しずつ具体的なかたちを探る歩みが始まりました。今年はさらに聖年ローマ巡礼を経て、新たに励まされた青年たちの思いも加わり、サビフェスはますます力強い広がりを見せています。

教会に育まれた心が、花ひらく一日

第1回サビフェス開催のときから、「サビフェスは、スタッフが凄い！」というお声を、多くの出展者さんよりいただいています。普段、様々なイベントに出展されていて、私たちよりはるかにイベントのご経験がある方々からいただくそのお言葉はスタッフたちの励みにもなっています。どうして、そう言っていただけるのか。それは、スタッフ一人ひとりがそれぞれに教会を大切な場所に感じている、そして、そこを訪れる方にもすてきな教会体験を持って帰っていただきたいという思いを、心のどこかに持っているからではないでしょうか。教会で受けた愛が、教会を訪れる方への最高のホスピタリティとなって、花ひらいています。



出展者の荷物を運ぶスタッフたち



サビフェス vol.2
ボランティアスタッフ集合写真



イベント終了後の様子



テゼの祈り

ステンドグラスから差し込む光と、皆の歌声で紡ぐ聖歌によって、会場が祈りの空気に包まれる時間です。過去2回のサビフェスでは、プログラムの一番最後に実施することで、これまでカトリックの祈りを体験したことのない出展者さんたちにもご参加いただき、教会のエッセンスに触れていただく時間となっていました。今回は、来場してくださる方にもご参加いただきやすい、14:00~のプログラムとなっています。



臨時駐車場など
イベント詳細は
公式SNSより
ご確認ください

サビフェス vol.3
@山口教会

11/3 mon.

Marché

11:00~15:00

Taizé

14:00~14:30



INSTAGRAM



オススメ
オリーブの樹

秋のおうち時間を楽しもう



聖書ぬりえ

ぬりえは子ども用?
いえいえ、どなたにでも!
文字を追い続ける、いつもの聖書時間
とは、ちょっと違う方法を試してみま
せんか。
聖書の時代の色や情景を想像しながら、
色を重ねる楽しさをどうぞ。
ついつい時間を忘れてしまう、かも?!



みことば花みくじ

陶器のマリアさまや天使の中に入っている「みことば」が書かれたおみくじ。
このおみくじをそのまま土に埋めて、
水やりをしながら待っていると…。
あら、不思議!
小さな芽が出て花が咲くとか!
みことばを味わいながら、どんな花が
咲くのか楽しみに待ちましょう♪



サンキャッチャー

一瞬にして「その雰囲気」になると評判のステンドグラス風シール。
貼って剥がせるので、リビングでも、
寝室でも…、どこでもお好きな場所に!
お日さまの恵みをより楽しめます。

お見舞いにも

「ベッドの上からでもマリア様が見える!」
と好評です。

初めてのクリスマス



続々入荷中!

いつも荷物が届くたびに感じている
プレッシャーも、クリスマス用か?
と思うだけでちょっぴりワクワク★
荷ほどきのたびに「わー素敵!」
「なんだこりゃ?」を繰り広げて
います。自分だけのお気に入りを見
つけてください!



まもなく閉年



2025 聖年もまもなく閉年。
「希望の巡礼者」として過ごしてきた私たちに
寄り添い、ともに歩んできたロゴマーク。
期間限定グッズの伴走も残りあとわずかです!

実際に、商品のバーコード作成、ディスプレイの方法、レジの打ち方、対応の仕方など、てんやわんやの数ヶ月ですが、平均年齢60歳以上の熟女たちの奮闘を、皆様、どうぞ温かい目で見てくださいませ。広島市内外の教会に属している信者を含め、メンバー10数名で毎日曜日を担当する中で、長く存続していた「パウロ書院」への感謝の気持ちを忘れずに、美しく仕上げられた現地の製品を手にしていただける喜び、教会関係の書籍・各地修道院のグッズに囲まれる幸せを感じています。

最後に、サラーム製品のご紹介を:パレスチナ刺繡(タロスステッチ)をあしらった色鮮やかなバッグ・ポーチ・聖書カバーなどを取り揃えています。合わせて、ベツレームの工房で造られたオリーブ工芸品やベツレヘムパールなども置いています。パレスチナの平和を祈りながら、これからも皆様のご協力をお願いいたします。



サラーム代表
神垣しおり

よもやまオリーブの樹

ここには、「幟町書院 オリーブの樹」の日曜日担当

ボランティアの「サラーム」(パレスチナの女性を支援する会)です。私たちは、パレスチナの紛争が長く続く中、イエスさまのふるさとベツレヘムの数10km南西部にある

イドナ村(ヨルダン川西岸地区)の女性たちが制作した刺繡製品のフェアトレードを通して、彼女たちの自立支援を行っています。日頃より、カトリック幟町教会には、研修

室利用やバザーでお世話になっており、ありがとうございます。サラームの活動を30年近く行いながらも、常設展示場所がなく、教会以外に、国際交流イベントや教会関係のバザーなどを行ってきたところ、この度、サンパウロ運営の「幟町書院 オリーブの樹」で常設させていただく貴重な機会をいただきました。

実際は、商品のバーコード作成、ディスプレイの方法、レジの打ち方、対応の仕方など、てんやわんやの数ヶ月ですが、平均年齢60歳以上の熟女たちの奮闘を、皆様、どうぞ温かい目で見てくださいませ。広島市内外の教会に属している信者を含め、メンバー10数名で毎日曜日を担当する中で、長く存続していた「パウロ書院」への感謝の気持ちを忘れずに、美しく仕上げられた現地の製品を手にしていただける喜び、教会関係の書籍・各地修道院のグッズに囲まれる幸せを感じています。

岡山鳥取地区

*広島教区の日開催

9月15日（月・祝）岡山教会を会場に広島教区の日が開催されました。今年は、岡山鳥取地区の担当です。当日の参加者は、約300名でした。

白浜司教様をお迎えし、プログラムは、12時開会。参加者全員で、『希望の巡礼者』を合唱し始まりました。続いて、『広島教区百年史』が刊行されたことをテーマに講演会がありました。講師は、広島教区百年史編纂委員会の方々です。川本隆史委員長・猪口大記神父・肥塚修司神父の3人が話されました。本の内容や見どころなどお話しされたのは、猪口大記神父です。講演会終了後、参加者から大きな拍手が起きました。そして、白浜司教様からの感謝の言葉があり記念品の授与が行われました。続く国際ミサでは、第一朗読は、ベトナム語で、共同祈願は、日本語・英語・ベトナム語でおこな



岡山教会で行われた「広島教区の日」のミサ

われました。聖歌は、日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語の歌がありました。ミサの閉

祭前に、プラチナ・ダイヤモンド祝のシスター3人の紹介と、司教様からのカードの授与があり、記念撮影の後、閉祭の歌が聖堂内に響き渡りました。

今回は、同時開催として、『広島教区百年史』の販売があり、100冊用意していましたが、88冊が、売れました。（1冊約1980円です。）また、チャリティーパーク団体6団体が支援先の紹介や物品の販売をしました。

岡山教会の建物の中でも外も賑やかな雰囲気に包まれていました。

さて、行事の最後に、祝賀会を行いました。9周年を迎えた司教様と3人のシスターを中心に沢山の人々が集まりました。ケーキカットがあり、ベトナムやフィリピンの方々の歌と踊り聖歌隊による歌で盛り上げました。最後の白浜司教様のお祈りの時まで、多くの方が残つておられたのが

印象的でした。

開催のために岡山教会の皆様を始め多くの方のご協力と沢山のご寄付をいたしました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ま

た、ユーチューブ配信のため、広島から来られたお2人には、聖堂の2階からの作業お世話をなりました。

当日の様子は、広島司教区ホームページの動画コーナーでご覧いただけます。来年は、広島地区の担当で

す。よろしくお願ひします。



巡回参加者
教会のマリア小聖堂で、皆でミサの準備をしてミサをお捧げし、免貸の恵みと巡回の無事を祈りました。そ

*聖年巡礼の手記

2025年9月5日

今年は教会にとつて特別な聖年を迎え、3つの教会を巡る巡礼の旅にでま

した。その旅は主任神父様がご自分の車に私達5人を乗せてくださり、遠い道のりを長時間運転してくださりました。そのお心に感謝の気持ちでいっぱいになりながら乗っていると、教会を出発して、まもなく、空に大きな虹がかかって、神さまが私達を祝福してくださつている様に感じました。

明石由美子（徳山教会）

今回の巡回は免賃の恵みと共に、信者同志の絆を深め、神さまの愛の大きさを心に刻む旅となりました。

山口島根地区

なりました。

初めに、轍町

教会のマリア小聖堂で、皆でミサの準備をしてミサをお捧げし、免貸の恵みと巡回の無事を祈りました。そ



青年の活動

今回私はローマで開催されていたジュビリーに行つきました。広島教区からは3人の青年が参加し、全国の教区から50人ほどの青年が集まりました。出発の三ヶ月程前から月に一度くらいオンラインで講話を聞き、分かち合いをして事前準備もしていきました



聖カルロ・アクティス――日本の教会に若々しい光を

細江教会 ディン 神父（イエズス会）

2025年9月7日、教会は聖カルロ・アクティス（ロンドン1991—2006アシジ）を聖人の列に加えることを喜びのうちに迎えました。デジタルの現代において、聖カルロは15歳で神への深い信仰心を持つていました。日本の殉教者や隠れキリスト者の出来事を思い起こす時、私たち日本人は信仰を「守る」だけではなく、「生きる」ことが血肉の一部となっています。現代では信者数が減少し、多くのカトリック施設が閉鎖され、司祭も不足していますが、その種は今も確かに残っています——毎朝口ザリオを唱える

高齢者、小さな共同体でのミサ、そして現代社会で意味を模索する若者たちの中に。そのような現代日本社会で、信仰が静かに、しかし忍耐強く生きられる場所——この日本の教会において、カルロは生き生きとした象徴となり、私たち皆、特に若者を日常生活を聖化する旅へと招いています。

まずは、カルロはテクノロジーと無縁ではありませんでした。インターネットを宣教の手段として用いました。彼が制作した聖体の奇跡を紹介するウェブサイトは、何百万人もの人々にとって靈的な宝となっています。日本の若者がテクノロジーと深く結びついでいる社会において、カルロは、信仰ではなく、クリック一つ、SN

した。そして迎えた日本出国の日はすごく緊張していたのを覚えています。言葉が通じるかも不安でしたし、最も不安だったのはトイレと治安！でした。しかし、ローマにいたら町の人はみんな陽気で優しくて不安はすぐになくなつたのを覚えています。ちなみにローマのトイレはすごくきれいでした。そうして始

Sの投稿一つを通して広がっていこうことを示してくれます。したがって、日本の教会は、カルロから、デジタルコンテンツの制作やオンライン祈り会の開催、またはInstagramでのみ言葉を分かち合うといったように、テクノロジーを用いて福音の種を蒔く方法を学ぶことができるでしょう。カルロは、インターネットがただの娯楽の場ではなく、「天国への道」となりうることを証明しました。

それで、忙しい日本社会では、典礼から遠ざかりがちですが、カルロは私たちを命の源泉に立ち返るよう招いているのです。聖体礼拝を定期的に開催することは、イエス・キリストの現存への愛を再び呼び覚ます一つの方法となるでしょう。また、信仰が重荷ではなく、命と光そのものであることを感じる必要があります。

つまり、聖カルロ・アクティスは、決して遠い聖人ではなく、私たち、そして現代の若者の良き友なのです。彼は私たちに特別なことを求めるのではなく、日常を「非日常的」に——愛と信頼、そして神の臨在をもつて生きることを招いています。日本の教会にとって、カルロは希望の種であり、若々しい光であり、聖性には文化や年齢の壁がないことを思います。カルロは毎日ミサに与り、聖体礼拝をし、ロザリオの祈りを大

まつたジュビリーの巡礼はすごく「楽しい」経験だったことは今でも記憶にすっごく残っています。日本の巡礼団のみんなと夜遅くまで交流を深めたり、イタリア人と歌ったり、フランス人と歌つたり、たら巡礼団とはぐれたり、ポーランド人と町中で輪になつて踊つたり、韓国の神父様に韓国人と間違えて「こつ」ということを示してくれます。

私が初めて信仰をしつかりと意識することになりました。「ロザリオは天国へ行く一番の近道です」とも述べています。

そこで、忙しい日本社会では、典礼から遠ざかりがちですが、カルロは私たちを命の源泉に立ち返るよう招いているのです。聖体礼拝を定期的に開催することは、イエス・キリストの現存への愛を再び呼び覚ます一つの方法となるでしょう。また、信仰が重荷ではなく、命と光そのものであることを感じる必要があります。

つまり、聖カルロ・アクティスは、決して遠い聖人ではなく、私たち、そして現代の若者の良き友なのです。彼は私たちに特別なことを求めるのではなく、日常を「非日常的」に——愛と信頼、そして神の臨在をもつて生きることを招いています。日本の教会にとって、カルロは希望の種であり、若々しい光であり、聖性には文化や年齢の壁がないことを思います。カルロは毎日ミサに与り、聖体礼拝をし、ロザリオの祈りを大



小畠優太（岡山教会）

2025聖年の閉幕まで約2か月。聖年の恵みに感謝し、被爆80年でもあつた節目の1年を振り返りながら、これからも希望の中を歩んでいきたいと思う。